

1. 知事のあいさつ

皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、この座談会にご参加を賜りましてありがとうございます。

今日は、四万十川すみずみツーリズム連絡会の皆様方は、いわゆるグリーンツーリズムの最先端をいって、しかもネットワークを組んでやっておられることで、レベルの高取り組みをしていらっしゃる、さらには地域おこしに対しても非常に先進的な取り組みをしておられると伺っております。それぞれの皆様方の成功体験やご苦労といったことをお伺いして、今後の県政の運営に生かさせていただきたいと考えております。

【基本政策について】

今、盛んに取り組んでいるのが、経済の振興の問題、そして教育の改革、日本一の健康長寿県構想の推進、これが県政の3本柱です。これに加えて、それぞれを支えていくための必要不可欠なインフラ整備の推進や、さらには南海地震対策といったものを進めてきているところです。

この第1の経済の振興につきましては、お手元の[産業振興計画](#)のパンフレットのとおり、今、実行2年目で、進めているところです。ひとつの大きなコンセプトは地産外商ですが、前段の問題として、まず地産地消を徹底し、それに加えて地産外商を進めています。

高知県は、この5年間で人口が3万人減りました。結果として経済規模も合せて縮んでいくという現象が続いてきています。これは、高齢者の方々の数が、20代から40代の子どもを産む年代の方の数よりも圧倒的に多いことに伴う、ある意味自然減少と言わざるを得ない側面があります。これから、あと10年、15年くらいは、こういう減少ペースというのは続いていくのではないかと予想されています。

そういう中で、県内の足下の市場頼みであっては、残念ながらうまくいかないの、外から外貨を稼いで来て、県内市場が縮んでいく分を補っていくという試みが必要だと思うわけです。

地元で作ったものを外で売って外貨を稼ぐということもひとつですし、地域に外から人に来てもらって地元でお金を使ってもらうことも地産外商だと考えております。高知県のように高齢化、人口減少が進んでいる県では、このことを余計進めていかなければならないと思うわけです。

例えば、観光振興の取り組みとしては、龍馬伝にあわせて、「土佐・龍馬であい博」を開催しました。また、外商活動という点では、東京のアンテナショップ「まるごと高知」で売り込みを図る。店頭で売るという事も目的のひとつですが、東京のデパートやスーパーに外商活動をかけて契約に結びつけ、東京で物が売れるような取り組みのバックアップをするといったことを営々と進めてまいりました。

【産業振興計画の改定について】

産業振興計画は、今年の4月から実行の3年目になります。毎年度、時々の状況にあわせて改定し、またバージョンアップをしていこうと考えています。今年改定するポイントとして、3つお話をさせていただきたいと思います。

第1には、地域地域での拠点ビジネスというものを発展させるような施策をとっていきたいと考えています。地域アクションプランとしていろんな取り組みをさせていただいてきた中で、かなりうまくいったものやこれからまだまだというもの、もう一段上のレベルに上げていくことが出来るんじゃないかと思われるものがあります。

また、さらには、こうち型集落営農の取り組みなど、いくつかモデル地域を設定して、県内6ヶ所くらい実施してまいりました。これは、集落協定を結び、売り物になる作物を多品種植えていき、年に何回も収穫を得て、現金収入が得られる農村をつくっていこうという取り組みです。さらに、農産物の加工でありますとか、グリーンツーリズムをあわせてやっていくなど、いろんな産業を組み合わせることで集落全体として、ビジネス展開していき収入が得られる、ゆえに若い人が残れる。そういう集落づくりを目指していくような取り組みを大いにバックアップする施策を強化していきたいと考えています。

第2には、土佐・龍馬であい博の後継として、「志国高知 龍馬ふるさと博」という観光イベントをもう1年、実施していきたいと考えています。龍馬であい博は、非常にある意味うまくいきました。今日の開催地である梶原町も10万人の目標にあと一歩でありましたが、本当に素晴らしいお取り組みだったと思います。地域の皆様方が頑張られて、集客を図ろうとされ、結果として新しく観光地になったというところが、安芸や梶原をはじめ、県内いくつも出てきているのではないかと思います。

経済効果の当初予想が210億円ちょっとでありましたが、535億円まで拡大いたしました。やはり、多くの皆さんが官民協働で頑張られた結果だと思っています。

大河ドラマが終わった翌年の反動減対策、これをしっかりと講じていくことが大事だと考えています。大河ドラマが終わった翌年、その前の年よりも落ち込むというのが通例であります。それを防ぐためにも、大河ドラマが終わった翌年に、もう1回観光イベントを打っていきたいと考えています。

坂本龍馬がひとつのメイン、ターゲットということになります。坂本龍馬の人気は、そう簡単には衰えないんじゃないかと。龍馬伝をみて高知に来たいと思った人の10分の1くらいしか実際には高知に来てないんじゃないかという分析もあり、そういう分析も参考にして、引き続きそういう潜在的な顧客に高知県へ来ていただくようにするためのイベントを打っていこうと考えているところです。

この龍馬ふるさと博は、龍馬であい博をさらにバージョンアップし、龍馬だけではない、その他のいろんな歴史の資源というものをもっと生かして、より地域地域に、観光客に来てもらおうというのがあります。

もうひとつは、歴史だけではなく、花や食、自然体験といったものをもっと前面に打ち出し、もう一段地域のすみずみまで来ていただくために誘導していきたいと考えています。

逆に言うと、毎年、何とか博ということをやるとはいかないので、このふるさと博でPRは一旦終わり、ふるさと博が終わった段階では、それぞれの地域で、一定県外に向けての発信力をもった観光地となっていけるようにしていく。ある意味、この1年間は大きく成長していくためのゆりかごのような時期でもあるとも考えているところです。

そして、改定のポイントのもうひとつは、地産外商。外商は大分進んだところはありませんが、残念ながら地産がうまくいっていないというところがあります。例えば、アンテナショップでは非常に高知産のショウガを使った商品が売っていますが、加工しているのは県外という品物がたくさんあります。残念ながら高知県では、産業集積が小さいから、県内で加工工程が完結しないという経済構造の弱点があります。ものづくりは地産地消であって、それで作ったものを外へ持って行って外商をしていく。そうすることで県内にお金ができるだけ落ちていくといった取り組みを、マッチングさせる「ものづくりの地産地消センター」をつくって強化すること。さらにマッチングしやすくするための技術支援とか、いろんな投資に対する支援といったものを組み合わせて一連のものづくりの地産地消政策を大幅に強化していきたいと考えておるところです。

こういうかたちで、来年度は産業振興計画をバージョンアップして、より地域の産業おこしにつながっていくような取り組みを進めたいと考えています。

【医療、福祉、鳥獣対策について】

福祉の面では、日本一の健康長寿県構想を第2版に改訂予定をしております。

まず、医療の点で申し上げれば、今年の3月中旬から、ドクターヘリを一機増やします。2機で運行させることとなり、今まで対応できなかったところの救急医療の体制をもう一段強化して、対応できるようにしていきたいと考えています。

もうひとつは、高知医療再生機構です。短期的にできるだけ早く医師を呼び込んでくるシステム。県内の大学とも協力させていただく予定ですが、医師確保を全力で進めて、スピード感をもって取り組みを進めていきたいと考えております。

また、あったかふれあいセンターの取り組みを始めとした高知型福祉の取り組みも、もう一段強化したいと思っております。あったかふれあいセンターは今、県内で39ヶ所できており、多くの方々に集っていただいています。集いということが今、大きな機能になっていますが、その機能をもう一步進めて、例えば、訪問をして、早期に支援が必要な方も来ていただけるようなシステムづくりや、さらには地域の方々の生活といったことをバックアップする拠点として使っていくというようなことができるようにならないか。もう一段、地域の暮らしを支えるものとしての機能強化をすることができないかといった地域福祉活動計画を今年つくる予定になっておりますが、それにあわせて、バージョンアップ

を図れないか検討していきたいと考えておるところです。

最後にひとつ。シカやイノシシが増えています。前四万十市長さんに「中山間の暮らしというのは、野獣との闘いだ。」と教えていただいた言葉を忘れられません。最初、私は東京から帰ってきたばかりでピンときていませんでしたが、それが本当の話だと実感しています。シカを撃って、捕ってとじていますけれども、残念ながらまだ増えています。シカ対策を抜本強化するよう、例えば、専任のシカを撃つチームをつくっていくといった取り組みを考えているところです。

以上、主に中山間関係として、県政としてこういう方向で進めていこうとしているところでございます。どうぞよろしく願いをいたします。